

題名：「腐女子」という存在

西宮 理英

要旨：

日本のサブカルチャーを代表するものの一つに、アニメ・オタク文化が挙げられる。男性オタクが、小説や漫画で描かれたり、番組の特集に組まれたりする一方、近年女性のオタクも注目されるようになってきている。ゲームやアニメ、漫画を愛好する女性のオタクの一部に「腐女子」と呼ばれる人たちが存在し、最近では「腐女子」もテレビ番組の特集に取り上げられるなど、オタク文化の中でもオタクの女性として注目される存在になっている。「腐女子」は自分が「腐女子」であることを、日常生活では決して見せることはない。「腐女子」は水面下で自分たちが「BL」を楽しむ場を構築しているのである。なぜ、それほどまでに「腐女子」は社会から抑圧を受けなければならないのか。

本研究では、オタク文化の渦中で自分自身が抱いた疑問、①「腐女子」はなぜ「BL」を好むのか、②なぜ「BL」が好きだということを他者に公言出来ないのか、③なぜ「腐」という強烈なイメージを持つ文字を使い、あえて自分を表現する際に「腐女子」と称するのかといったことを切り口に、「腐女子」の構造を解明することを目的とする。

本研究の目的のために、まず、「腐女子」が「BL」を知ったきっかけや「BL」のどのようところに魅力を感じているのかを、「腐女子」本人たちにインタビュー調査を行った。次に、「腐女子」のセクシュアリティは、先行研究でも述べられているように本当に強いのか、また「腐女子」と「BL」を読まない女性のジェンダー規範に差異はあるのかを検証するため、質問紙調査を行った。

調査の結果を踏まえて、「腐女子」を以下のように考察する。すなわち、「BL」を好む「腐女子」の存在は、現代社会の性規範への対抗文化ではないか。女性が社会的規範の中で性的関心を持つことがある種タブーとされてきた中で、「BL」が好きだと自認することは、2つの意味で性の社会的規範から逸脱している。第1に、女性がセクシュアリティ傾向の強い作品を愛好するという点で、第2に、男性同士の恋愛という「異常な」関係への志向性の点で。その結果、「私たちは『世間的には』ノーマルではない女性とされていることでしょうね」という自嘲的な意味合いを「腐」に込めることになったと考える。

結論としては、現代社会に根強く存在するジェンダーおよびセクシュアリティの規範秩序に、「BL」作品を通して反旗を翻したのが、「腐女子」という「女性の」サブカルチャーであると読み解くことができる。